

歴史の宝庫・伏見の街を散策

銘水、水運に恵まれ、酒造の街として発展した町

企画委員会

平安時代には山紫水明の地として皇族、貴族の別荘が置かれ、安土桃山時代には豊臣秀吉が伏見城を築城し、一大城下町を形成して政治の中心になりました。伏見は良質で豊富な水に恵まれ、酒造りは古くから脈々と受け継がれてきましたが、伏見築城で需要が高まり、一躍脚光を浴びることになりました。秀吉は伏見城建設に合わせて宇治川と巨椋池を分離し、伏見城の西に外堀となる濠川を造り、濠川と宇治川の合流地点が大阪と伏見を結ぶ水運の拠点伏見港となりました。江戸時代に入り、角倉了以による高瀬川の開削で京都中心部と伏見は水路でつながり、伏見は京都中心部と大阪を結ぶ水運の拠点となりました。また、伏見は京都、大阪、奈良への陸路の拠点としても整備され、水陸合わせての交通の要所となりました。幕末には寺田屋事件、鳥羽伏見の戦いなど再び歴史の渦中に巻き込まれることになりました。

伏見桃山には大きく分けて次の四つの歴史がある。

- ① 政治の中心としての伏見城
- ② 酒造りの町としての伏見
- ③ 水運の要衝としての伏見
- ④ 幕末の戦乱の舞台となった伏見

今回は②伏見の酒と③伏見港を中心に散策する。

日時：11月11日（金） 2班、4班は10時集合（午前の活動は2、4班で3グループに分ける）

1班、3班は10時20分集合（午前の活動は1、3班で3グループに分ける）

集合場所：京阪電車「中書島駅北改札口」

行程：午前 中書島駅→昭和伏見港→三栖閘門→角倉舟入跡→伏見であい橋→寺田屋前→長建寺→大倉記念館^{男女}→伏見夢百衆→こうらい橋横公園（昼食）^{男女}

午後 公園→黄桜記念館→竜馬商店街→納屋町商店街→大手筋商店街→御香宮神社^{男女}（解散）

持ち物：飲料、弁当、雨具など

雨天時：気象庁前日17時発表の京都南の天気予報で、午前または午後の降水確率50%以上で中止

参考：午前は2つの班を3分し、6グループに分けてボランティアガイドが案内。

午後は各班ごとに見学、各班ごとに解散

午後の案内：1班山下、2班後藤、3班竹山、4班小牧



白壁土蔵の酒蔵と観光遊覧船



御香宮神社（豪華絢爛な装飾）